

飯坂

湯ったりいいざか 歩いて発見 温泉情緒

こぞらに
ふしま通

①十綱橋

飯坂温泉のシンボルともいえる摺上川に架かる日本最古級の鋼アーチ橋。橋の両岸を十本の籐の綱で結び、板を渡してその上を歩行していたので「十綱橋」と言っていたそうです。



鎌倉時代、平泉に落ちてゆく義経の追討軍をこの地で迎え撃った大島城主・佐藤基治は、軍勢を阻止するために籐綱を切断して橋を落としたと言われています。

②波来湯公園

波来湯の隣に平成23年4月にオープンした公園。

公園内には、温泉の薬効にあやかった「波来薬師」や「乙和の清水」跡などがあり、旧波来湯があった一番奥まった場所には、足湯が併設された「波来湯分湯槽」があり、地域の憩いの場となっています。



波来湯分湯槽

③旭座跡

現在の東邦銀行飯坂支店に、明治・大正・昭和と55年に渡り、芝居小屋から始まり、後に映画館となった「旭座」は、娯楽の殿堂として戦争中そして終戦後の町民に喜びを与えてきました。



写真提供／齋藤隆夫氏

④なかむらや旅館

江戸時代に創業した旅館「花菱屋」（花水館の前身）を買い取り、現在も営業しています。

江戸時代から続く「本館」は、赤瓦、白壁土蔵造り3階建てで、2階の壁には「花菱屋」の紋所「花菱」となかむらやの紋所「違いの鷹の羽」が並んでいます。



明治時代に増築した土蔵造り、木造3階建ての「新館」とともに、平成10年4月に国の有形文化財として登録されました。

⑤鯖湖神社

境内には「飯坂温泉発祥の地」の碑と俳人・正岡子規らが飯坂を詠んだ句碑が建てられています。

また、身体の癒したい所に温泉をかけると良くなると伝えられている「泉仏 お湯かけ薬師如来」も祀られています。



⑥旧堀切邸

江戸時代から続いていた豪農・豪商の旧家。1775年建業の県内で現存する最大で最古の土蔵「十間蔵」や近代和風住宅の「主屋」など歴史的価値の高い建物が現存しています。

ちなみに「堀切」の名の由来は、屋敷の西を流れていた赤川が大雨で氾濫したとき「堀を切って」被害を食い止め、その地名を「堀切」とし、併せて堀切氏としたそうです。



⑦八幡神社

社伝によれば平安時代後期に、後三年の役で奥州に出陣した源義家がこの地にさしかかったときに、空に長くなびく八条の雲を見て、あたかも源氏の白旗が大空に翻るかの様に、守護神の八幡大神が戦勝の験として示されたものと信じ、必勝祈願のため勧請したと伝えられています。



飯坂けんか祭り

八幡神社の秋の例大祭で、10月の第1土曜日を中心に三日間かけて行われます。その激しさから「けんか祭り」と呼ばれ、大阪・岸和田の「地車祭り」、秋田・角館の「飾山ばやし」とともに《日本三大けんか祭り》のひとつに数えられます。太鼓の調べは京都・祇園囃子の流れを汲み、300余年の伝統を誇ります。その激しさから「けんか祭り」と呼ばれています。



⑧古館公園

平安時代末期の1189年「石坂の戦い」で、奥州平泉勢の佐藤基治方が源頼朝方の鎌倉勢に負けた後、鎌倉勢として活躍した中村入道念西（伊達朝宗）の四男・伊達為家が築いた館（城）の跡で、湯山城とも呼ばれています。



⑨ゆざわ芭蕉の道公園

平成23年3月に湯沢通り沿いに完成したポケットパーク。名前の由来は、公園の南側上部に、江戸時代に松尾芭蕉が「奥の細道」で歩いたと思われる道があることから来ています。

